

第 3 回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

<ふるさと教育>

- 白川文字学は大人が学んでも興味深い内容である。大人が身近に感じられるような講座を設けるなど、大人が学ぶ姿を見せることにより、子どもたちにも良い影響がある。
- 福井は書道が盛んな土地柄である。学校の書道の教員は減ってきているが、地域の書道の先生にも協力してもらえばいい。
- 読書習慣・読書量は人によって大きく異なるので、一つの共通の本をクラス全員、家族で読み通す活動は大きな意味がある。
- ふるさと教育をプログラムの的にできないか。県外に進学した大学生に戻ってきてもらい、福井を盛り立ててもらうのも一つの大きな目的だと思う。
- 福井に大企業は少ないが、魅力的な職場があり、活躍している女性もいる。高校生のうちに情報を入れておいて、進路選択の際に思い出してもらいたい。
- 県内で活躍している女性の実態を高校生に伝えることが大切である。実際に話をしたり、意見交換したりする経験があるとだいぶ違う。

<高校生の学力向上>

- 最近では現役生でも予備校を利用することが多い。受験には技術的要素が強いので、公立高校においても技術・戦術を伝えるシステムが大切である。
- 高校では、補習授業を行う際に、通常の授業で教えている内容と関連して効率的にプラスアルファを教えることができる。予備校に対する強みになると思う。
- 県独自テストについて、来年度以降は社会の記述問題の導入も検討してはどうか。
- 生徒のやる気を引き出して、進学意欲を喚起することが大切である。経済的条件で進学等を断念することがないよう、引き続き支援に力を入れることが必要である。
- 進学校の中にもレベル差がある。クラス分けや個別指導により、生徒一人ひとりを伸ばすことが重要である。

<教育研究所機能強化>

- 研究開発は 0 から 1 を生み出すこと。現在、存在しない新たなものをつくり出せるような教育研究所にしてもらいたい。